

◇「中信ビジネスフェア2009」への出展による 栄養アセスメント・栄養相談

〔はじめに〕

毎年10月に京都中央信用金庫主催による地元企業・団体や大学・府や市等の研究機関による大商談会が開催されている。本年度はその第21回目に当たり、昨年引き続き2回目の参加であった。今年は10月14日（水）・15日（木）に京都府総合見本市会館（パルスプラザ）展示会場で開催され、約200ブースを使用した出展があり、異業種間での交流とビジネスチャンスの場が提供され、大学関連の参加は約10校であった。見学来場者数は一般市民を含む約8,000人であった。栄養クリニックからは指導員1名と学生ボランティア6名（食物栄養学科3・4回生が1日交代）が参加した。

〔参加目的と実施内容〕

本ビジネスフェアの見学に来られた一般市民や企業の方々を対象に、平成20年7月からオープンした栄養クリニックの開設目的と昨年度実施した生活習慣病対策講座、料理教室、季節の食卓を演出するフードコーディネート、病院や介護福祉施設の管理栄養士などを対象とする研究会、卒業生を対象とする生涯学習、附属小学校のランチの提供と食育などの活動事例をパネル媒体で紹介すると共に、今後に予定されている事業紹介を行う。そして、健康維持や生活習慣病予防への市民への積極的な啓発活動の一環として、骨密度測定、ヘモグロビン測定、握力測定などを無料で体験していただき、これらのアセスメント体験から各自の健康への関心を深めていただく。希望者には、アセスメントの結果説明や日常の食事や運動習慣などの聞き取りから、各自の健康管理について必要なアドバイスをする。また、特定の個人栄養相談を受け付ける。

ボランティアとして参加する学生は、病院や社会福祉施設などの管理栄養士を目指す3回生や4回生であり、栄養アセスメント希望者の受付、内容説明、測定実施と簡単な結果説明を担当し、来訪者と気持ちよく応対でき、満足していただけるような接し方を実践で学ぶ。これらの体験から専門職業人としてのコミュニケーション力を養い、管理栄養士の資質向上に役立てる契機とするなどである。

〔成 果〕

参加者は20代から70歳代と幅広く、2日間で約130名の栄養アセスメントへの参加があり、殆どの方が、骨密度、ヘモグロビン、握力測定を受けられた。血圧や体脂肪も測りたいとの希望があったので、次年度は簡易型・血圧計と体脂肪計の準備も必要と思われた。途切れることなく来訪者があり、昨年度の2倍の利用者があったが、昨年度の経験があったので比較的ゆっくりと応対することができた。参加者の多くはアセスメントの詳細な説明を求めた。問題点が

ある方には、食事や運動を中心とした改善案を示し、各自の生活の中でできそうな取り組みを考えていただくなどの支援を行い、概ね受け入れていただいた。多くの方から、自分の骨量、貧血、体力、栄養状態を知ることができたので、来た甲斐があったなどと声を掛けていただき、熱心にメモを取られる方もあり、成果があったことを実感した。

栄養相談の内容は、メタボ対策、糖尿病、高コレステロール血症、高尿酸血症、胃腸障害、白血病、幼稚園児の偏食などさまざまであった。

昨年度は、栄養クリニックは「何をしている所ですか」、「面白そうですね」、「一度、講演に来てもらえますか」などと、あまり踏み込んだ企業からの商談はなかったが、今年は、十数社を超える商談があった。主な内容は次の通りである。

- ① 医療関連および一般のシステム開発関連会社から、管理栄養士がもっと広く活動できるシステム開発に協力してほしい。
- ② サプリメント、美容関連、アスレチック関連会社などから、食事のことについてもっと勉強したいので支援してほしい。
- ③ インターネットを中心とした食事相談を開設したいので、食事診断システムの開発への協力や非対面式カウンセリングの成功法などを教えてほしい。
- ④ メタボ対策の方法を具体的に教えてほしい等。

企業の「メタボリックシンドローム対策ビジネス」、「健康ビジネス」および「食育ビジネス」への参入が急速に進んでいることを感じた。これまでの管理栄養士の職場が、病院、福祉施設、給食施設、学校、行政であったのが、今後はアウトソーシングの方向にあるとささやかれている。現に、「特定保健指導」などの取り組みが始まっている。管理栄養士の活躍の場は、社会的ニーズが多様化し、拡大されていくと思われる。これからの



管理栄養士は、自分の力で課題を設定し、企画・立案から実施、評価と解決できる力が益々必要になってくると思われる。在学中に、栄養クリニックの行事に積極的に参加することで、その能力を培い、実践力のある管理栄養士の養成に役立つことを願う。ボランティアの学生も当ブースへの企業の関心の高さに驚いていた。

この事業に、管理栄養士として就職を目指している4回生と3回生が6名参加でき、アセスメント測定と参加者との各自のコミュニケーション力を体験することができたのは大きな収穫であった。実際、学生たちは、「長時間でしんどかったが、とてもやりがいがあり、終わってみると楽しかったので、また参加したい」との感想であった。この催しへの参加は2年目に入

り、利用者の要望に応えながら、効率よく実施することができた。ブース内が狭いので、1日3名までしか学生は参加できないが、比較的、利用者の少ない時間に一人ずつ交代で、京都の代表的な企業のブースを見学し、「一堂で京都の企業を知ることができたこともよかった」との感想であった。また、栄養クリニックのパンフレットを100周年記念のクリアファイルに入れて渡しだけでなく、法人のご協力で、京都女子大学100周年記念

のオレンジ色の上着を貸していただき、100周年のチッシュを配ったり、入学センターからの入試案内のパンフレットなども置いたので、「京都女子大学の宣伝に加わることができて嬉しかった」との感想を残した学生もいた。



(木戸詔子)